

山川義夫先生を送ることば

経営学科長 三ツ木芳夫

本学教授山川義夫先生は、平成13年3月をもってご定年をお迎えになりご退職されます。本学発展のため、長年にわたりご尽力をいただきました。本学とのかかわりは、昭和42年非常勤講師、昭和43年4月に専任講師として就任されて以来、30有余年になります。

何年か前にお伺いしたことですが、先生は若い時から親代わりとして、ご弟妹の面倒を見ながら勉学に励まれ、美術の世界でその才能を開花させてゆかれました。そうした所以でしょうか、私には先生の描かれる作品に言葉にあらわすことのできない暖かさを覚えるのです。先生のいままでのご業績について、門外漢の私には何も述べることはできません。しかし、昨年開催された第62回一水会展（東京都美術館）に出品され、本号の巻頭を飾る作品『白銀ユングフラウ』について、美術評論家斎藤泰嘉氏は北海道新聞（2000・9・28夕刊）の美術批評欄にて次のように述べています。

「アルプスの雪の輝きを印象づける作品。透明な空気感に会場で足を止める人が多かった。」

先生のヨーロッパ美術に関するご見識の深さについては言うまでもありません。そのうえさらに一年間のフランス留学、その後のスイスを中心とした画題調査の旅を通し、一層磨きをかけておられます。

私にとって忘れる事のできない楽しい思い出は、先生とともに学生たちを引率し、海外研修旅行に行った時のことです。スペイン・イタリア・フランスの美術館において、それぞれの作品を前に、先生から懇切丁寧な解説を受けることにより、私たちは絵画の背景となる歴史や思想・文化を大変良く理解することができました。実にぜいたくな、そして味わい深い研修旅行でした。

思い出は尽きません。この度、敬愛する山川先生をお送りすること

は、まことに名残惜しいことでございます。先生の長年にわたる多大なご尽力にたいし、心より感謝を申し上げます。今後はご健康に十分留意され、先生の「美の世界」を一層深められますことを願いつつ、送別のことばとさせていただきます。